

性感染症対策

若年者へのアプローチと 医療アクセスの課題

白井 千香（神戸市保健福祉局・神戸市保健所）
小野寺昭一（富士市立中央病院・日本性感染症学会）

性感染症に関する特定感染症予防指針

現行 H18年11月30日厚生労働省告示第644号

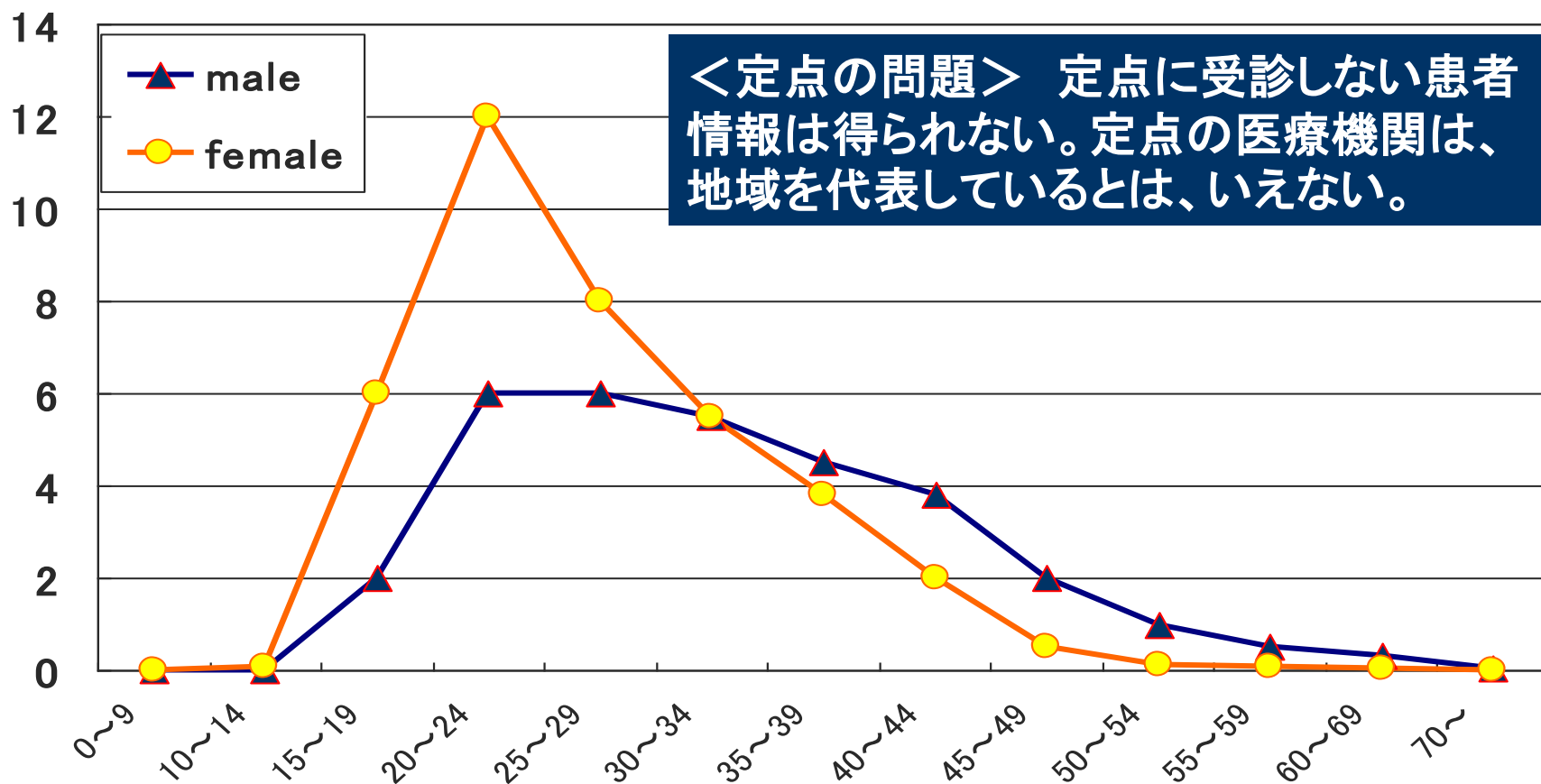
- 性的接触により誰もが感染する可能性がある感染症であり、生殖年齢にある男女を中心とした大きな健康問題の一つ・・・感染しても無症状であることが多く・・・特に、生殖年齢にある女性が性感染症に罹患した場合には、母子感染による次世代への影響があり得る・・・また、性感染症は患者等が、自覚症状がある場合でも医療機関に受診しないことがあるため、感染の実態を過小評価してしまうおそれがあり、性的な接触を介して感染するため、個人情報保護への配慮が特に必要であること等、公衆衛生対策上、特別な配慮が必要な疾患。
- 若年層対象の予防対策を重点的に推進していく必要あり
～ 性感染症は次世代へのクライシスである。
- H22年度～ 感染症審議会WGで改正検討中

性感染症発生動向調査

定点当りの性器クラミジア感染症報告数(年齢階級別報告数 H18～19)

STD定点報告数は減少傾向・HIV/AIDS全数報告は増加

人 性器クラミジア感染のリスクは若年者ほど高い。



若年者対策の概要

＜厚労科研費調査：小野寺班 ～22年度までの報告＞

1. ピアエデュケーションによる性感染症自己検査の普及
大学生や社会人(30歳未満)に、検査コーディネーターとなってもらふ。マニュアル「虎の巻」を使い、街頭で検査キット配布と検査勧奨
2. 自己検査における性器クラミジア無症状病原体保有者の状況
対象：15～25歳の無症状者
方法：郵送クラミジア自己検査(PCR検出)と性行動アンケート
キット配布機会：各種イベント・学園祭・大学・保健所
3. 保健所の性感染症対策の現状
虎の巻/性感染症予防指針に関する保健所アンケート H20年
対象：全国の保健所(517) 回答数(率)：205(40%)
方法：保健所長会からE - mail配信、FAX or E - mailで回答

1. ピアエデュケーション

検査コーディネーター(虎の巻)

性感染症検査結果照会サービス
kensa.org

[トップ/検査結果](#)[性感染症検査の
結果](#)[クラミジア感染症
淋菌感染症](#)[検査結果が
届いた](#)[治療薬リスト](#)

新着情報

■検査結果ページにアンケートを設けました。アンケートにご協力をお願いいたします。

検査結果
ログイン

ID番号

検査結果が反映されるまで1ヶ月ほどかかる場合があります。また、検査の結果
いかに、結果照会までにかかる時間が変わる事はありません。

▶検査結果が
届いた

性感染症について

性感染症（STD）はセックス（口を使ったオーラルセックスも含みます）によって細菌やウイルス、寄生虫などが感染する病気です。今、日本では若い人達の性感染症の増加が大きな問題になっています。

代表的な性感染症には、[性器クラミジア感染症](#)や[淋菌感染症（淋病）](#)、性器ヘルペス、梅毒などがありエイズも性感染症に含まれます。

性感染症にかかると男性では尿道炎や精巣上体炎（附睾丸炎）をおこし、女性では子宮頸管炎や卵管炎をおこして不妊や異常妊娠の原因になります。

また、性器クラミジアなどの性感染症にかかるとエイズに3～5倍かかりやすいとされています。



このサービスについて

このサービスは青少年に対して無症候感染症の情報提供をするため「性感染症に関する予防、治療の体系化に関する研究」
（主任研究者：東京慈恵医科大学 小野寺昭一）が企画・運営しております。

■このサービスに関する問い合わせ
kensa_org@yahoo.co.jp

Copyright©性感染症に関する予防、治療の体系化に関する研究班 All Rights Reserved All Rights Reserved

アンケートにご協力ください

今後の研究活動のため是非あなたの感想を聞かせてください。

質問1. 結果を受けてどう感じましたか？

☒ 受けてよかった
☐ 受けなければよかった

質問2. その理由を教えてください（複数回答可）

（よかった理由）

☐ 感染の有無を知ることができた
☐ 感染症が身近なものだと感じる事ができた
☐ 症状がひどくなる前に治療する事ができる
☐ その他

（受けなければよかった理由）

☐ 結果を知りたくなかった
☐ 結果を知ってどうすればいいか困った
☐ 不安になった
☐ 検査のことを家族、友人などに知られた
☐ 結果が使用できない
☐ その他

質問3. クラミジアについて知っていましたか？（複数回答可）

☐ 知らなかった
☐ 言葉だけは知っていた
☐ 性感染症の一つだという事は知っていた
☐ 不妊の原因の一つだと知っていた

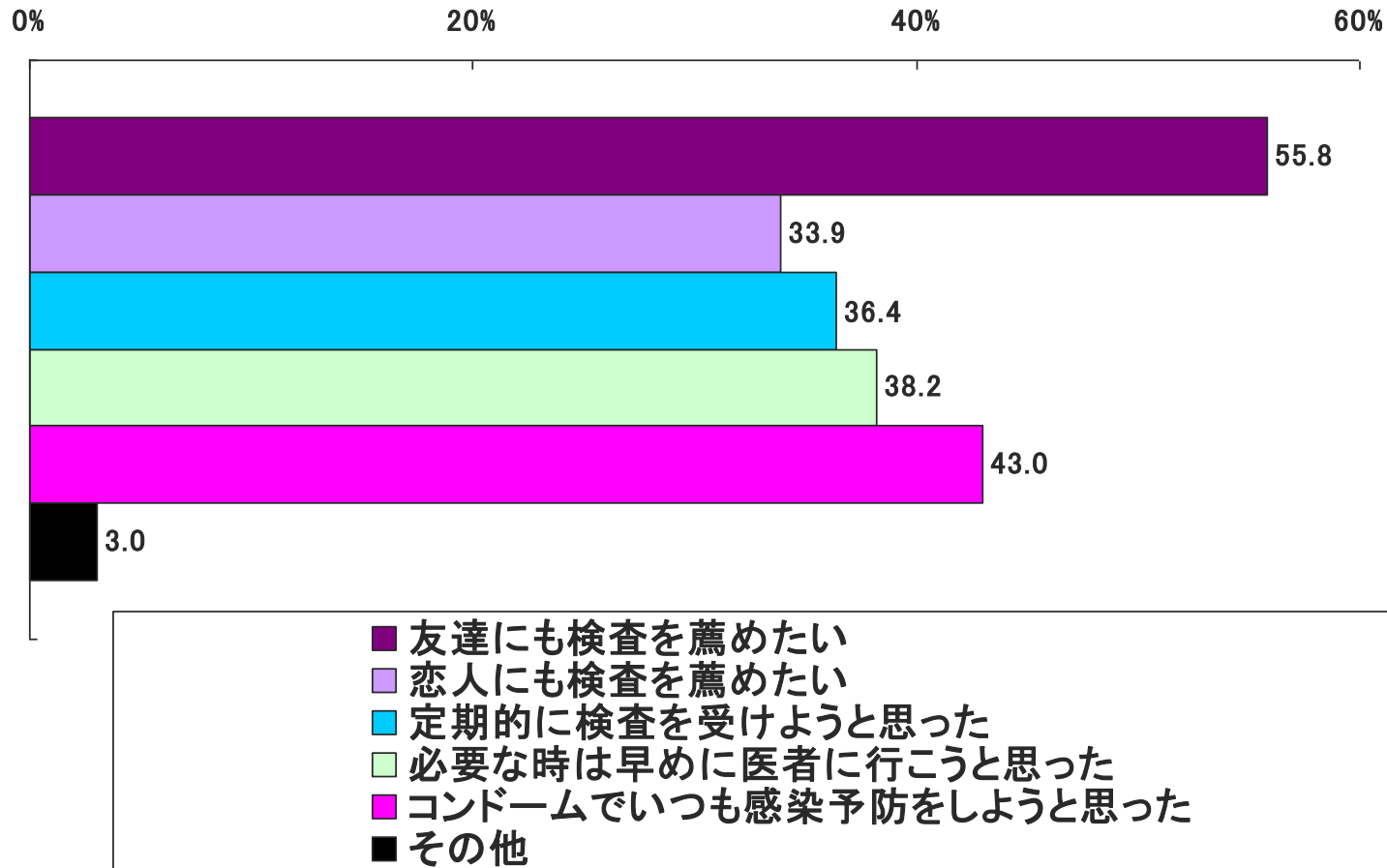
質問4. クラミジアとエイズウイルスの感染経路は同じだと知っていましたか？

☒ はい
☐ いいえ

質問5. 検査を受けようと思った理由を教えてください。（複数回答可）

☐ 家で手軽に検査できるから
☐ 無料だから
☐ 匿名で検査できるから
☐ 気になる症状があったから
☐ いつかは受けたいと思っていたから
☐ スタッフから説明を受けて関係があると思ったから
☐ その他

自己検査を勧められて受けた感想

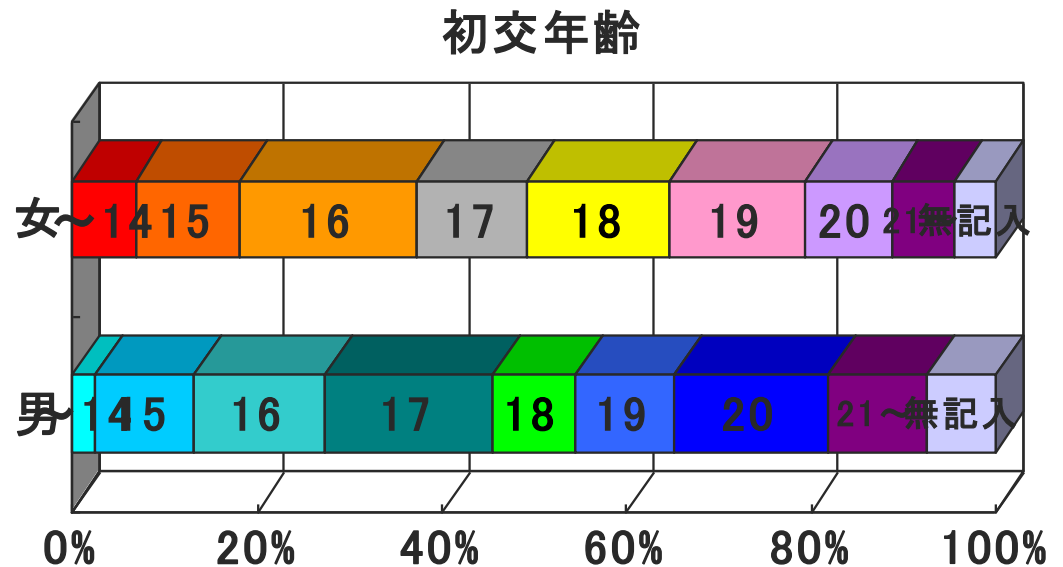
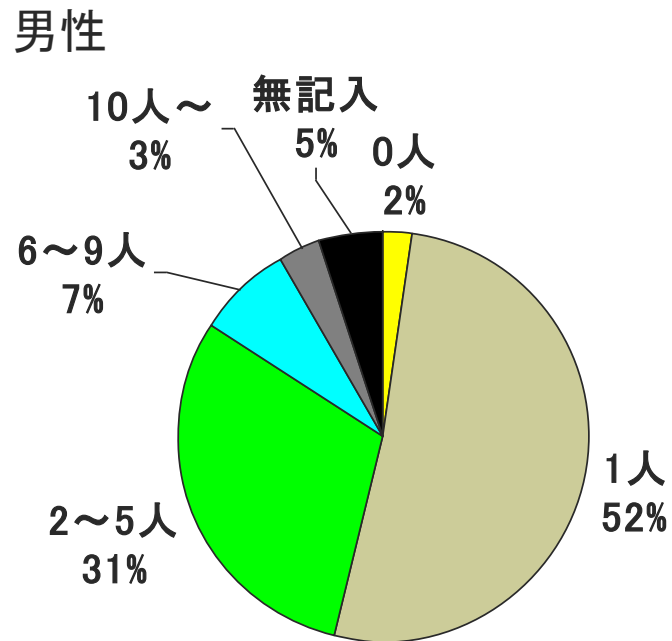
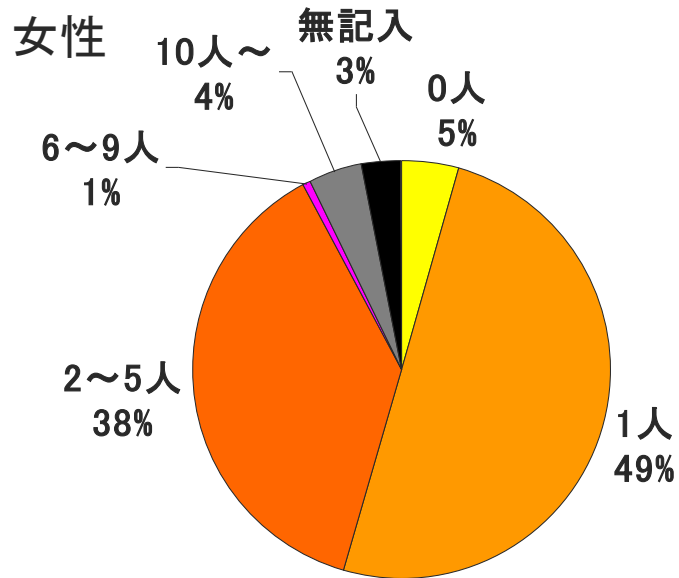


2. 無症状若年者の性器クラミジア感染症

調査年	キット配布数	検査回収 & アンケート回答率 男:女	性器クラミジア PCR 陽性率 男:女	配布場所・方法等
H18	2,045	19%:29%	5.8%:8.6% (10代女子10%)	4イベント・ 思春期外来
H19	1,850	21%:35%	6.5%:4.2%	イベント・検査コー ディネーター
H20	2,226	18%:29%	3.3%:5.3%	16イベント・検査 コーディネーター
H22	1,075	男女計 27%	4.0%:3.0%	イベント・検査コー ディネーター

若年者の性行動 H19年調査

- ・最近1年間のSexの人数(男女別)
- ・初交年齢(男女別)

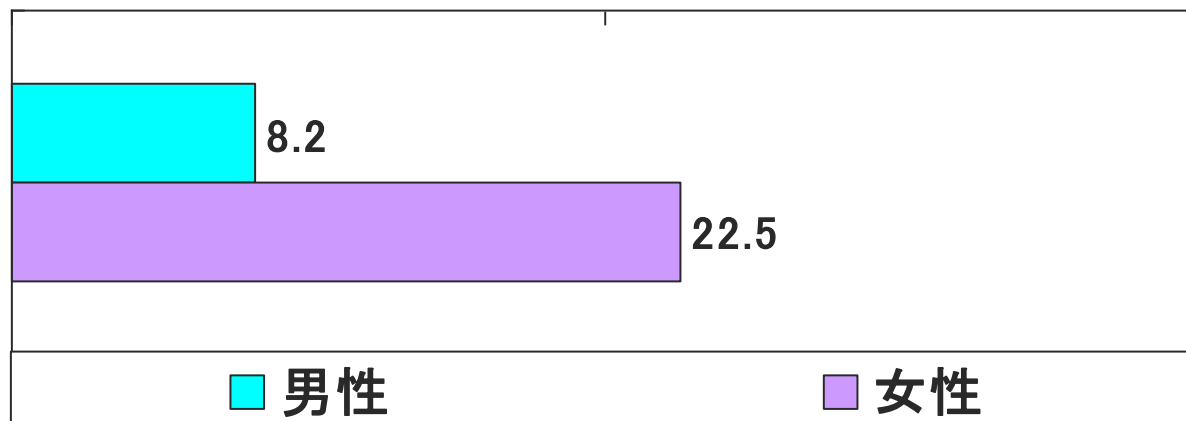


若年者の性行動

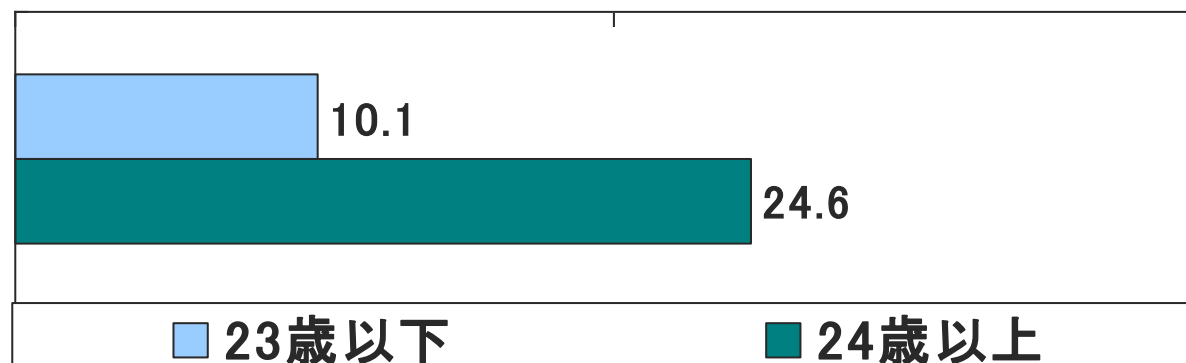
H22年調査

性感染症の既往歴 $p < .01$

0% 20% 40%



0% 20% 40%



年齢別 予防行動(感染リスク)の比較

	14－18歳	19－21歳	有意差
平均初交年齢	15.3±1.3	17.2±1.6	0.000*
コンドームがないときは セックスしない	27.9%	50.0%	0.046*
初交時コンドーム使用	54.8%	66.7%	0.346
2回目から常時使用	15.0%	28.6%	0.078
特に何もしない	39.5%	21.4%	0.099

若年者の中でも中高生は、大学生より性感染症予防行動を実行していない

年齢別 相談・検査・治療への希望

	14－18歳	19－21歳	有意差
彼氏・彼女に相談する	36. 4%	66. 7%	0.006*
携帯メールやインターネットで相談したい	47. 7%	26. 2%	0.047*
自宅で検査したい	18. 2%	31. 7%	0.209
親の保険証を使わないで済ませたい	68. 2%	39. 0%	0.009*

中高生は顔の見えない形での相談、大学生は関わりのある人に相談したいと思っている

医療アクセスの課題

～なぜ受診しないのか～

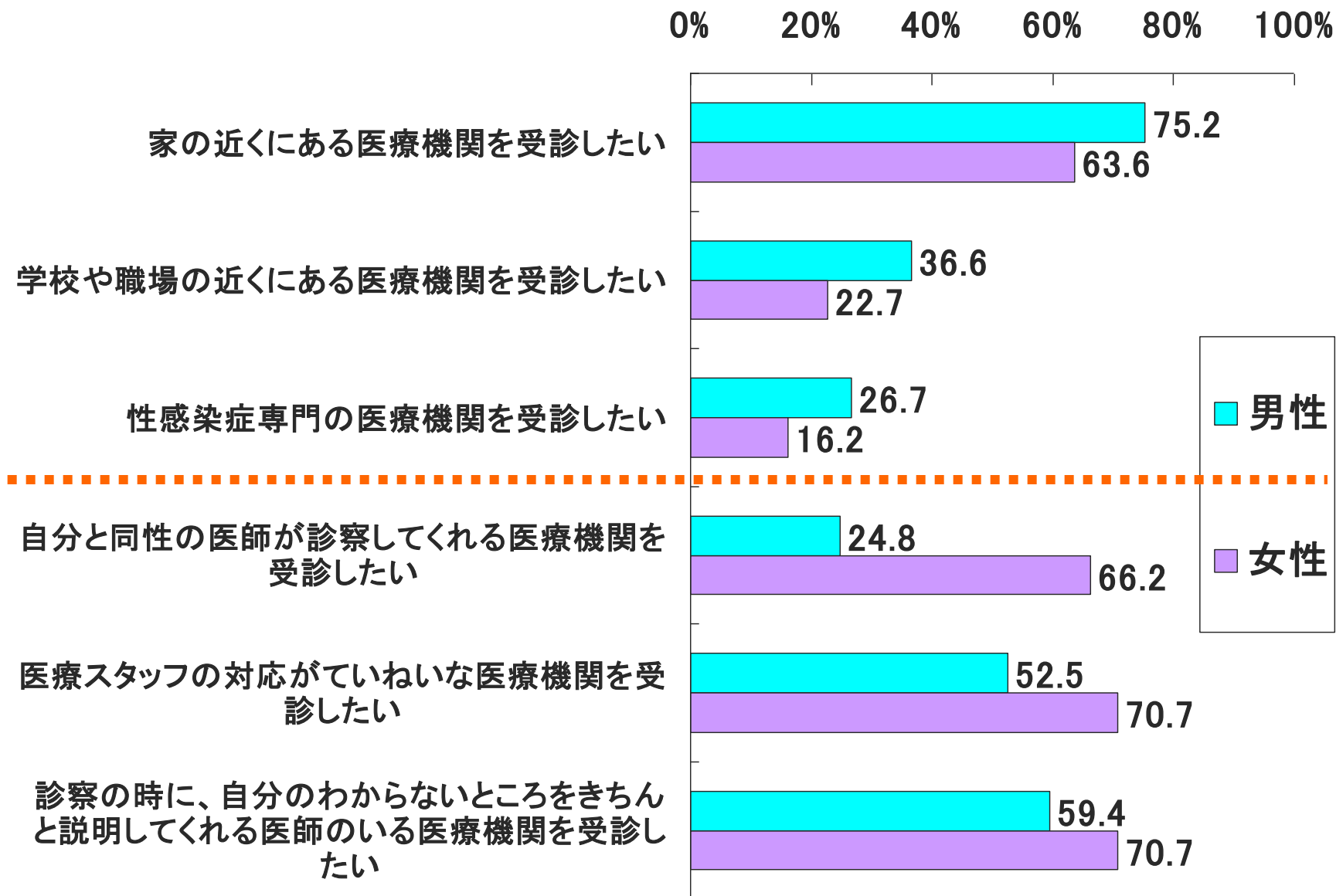
受診をためらう理由

- どこに受診すればいいのかわからない
- 治療費がいくらか不明
- パートナーへの感染不安「感染させているかも」
- パートナーへの告知「何て言ったらいいのか・・・」
- 無症状だから
- 受診する時間がない
- 性感染症はネガティブなイメージだから
- 性器などを見せるのが恥ずかしい

性感染症検査で陽性の場合 ～こんな医療機関なら受診したい～

- 医療スタッフが親切・丁寧
- 病気の説明や予防方法をわかりやすく教えてくれる
- 親身になって相談にのってくれる
- プライバシーに配慮
- 自分と同性の医師がいる
- 家の近所
- 休日診療をしている

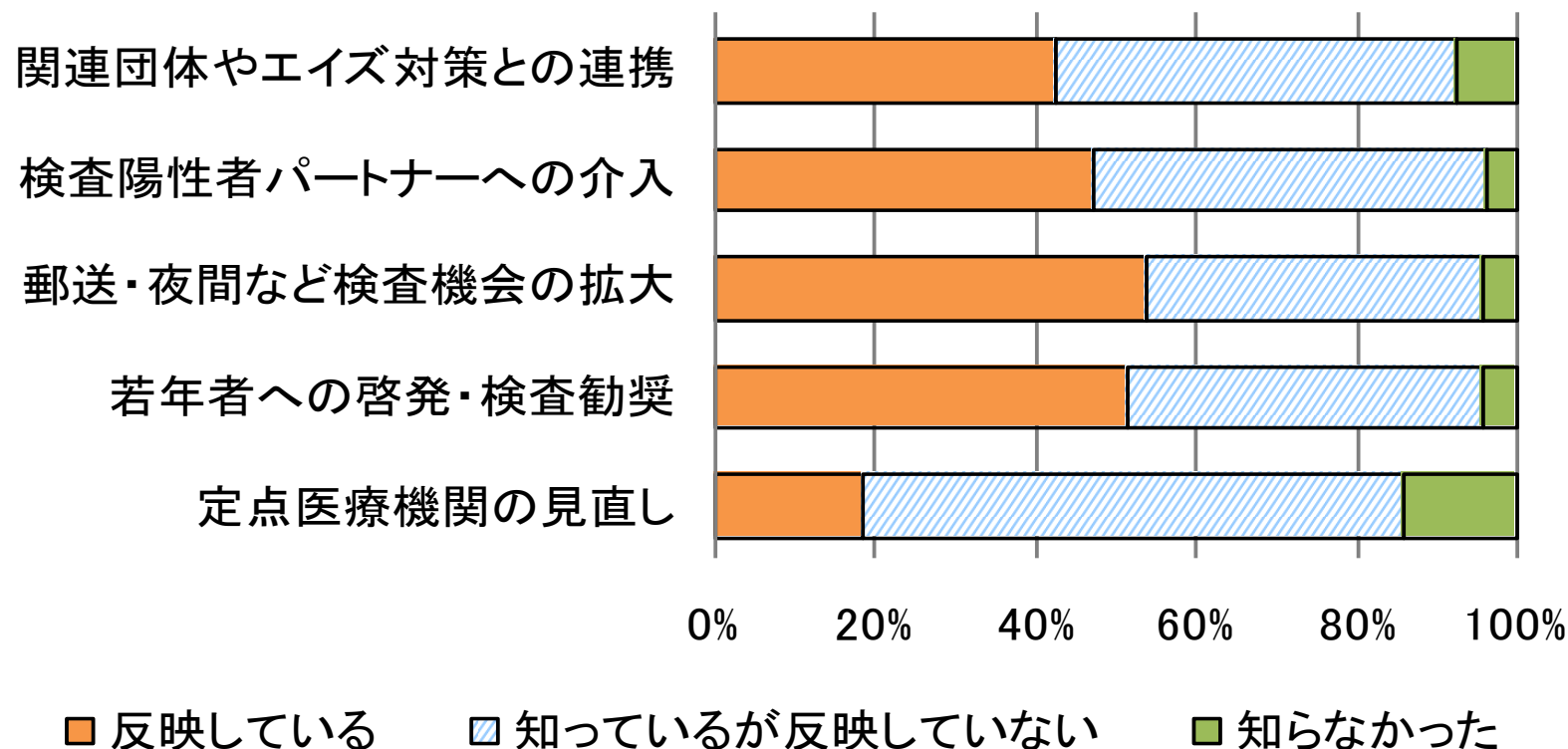
医療機関に関する男女の要望の特徴



3. 性感染症に関する特定感染症予防指針 についての保健所アンケート

H20年調査

特定予防指針改正ポイントを対策に反映しているか
(全国保健所へのアンケート)



若年者への性感染症予防のサポート

- 検査を普及する(クラミジアは自己検査が可能)。
- 医療機関の情報を提供する。
(受診時の検査方法・治療、費用、アクセス)
- 早期受診の動機付けを行う。
- パートナー(Sexの相手)への受診を促す。
- コンドームは感染予防として必要であり、使いたいと思わせるよう具体的にわかりやすく伝える。

検査コーディネーターなどの

ピアエデュケーションが鍵

当事者として・同世代として・学校・仲間と取り組む

次世代を守るための性感染症対策

Reproductive Health & Rights

- 当事者(若年者): 他人事にしない
自分も相手も守る性行動
- 医療機関: 若年者を受け入れる近接性
診療環境や姿勢に配慮
- 行政: 若年者向け啓発教育・NGOと協力
早期発見・治療のための検査体制
適切な治療につなげる医療機関連携

クライシス・マネージメントは平常時の延長である。